飯坂一也（いいざか かずや）
（公明党）

● 通学路の安全　どう守る？

質問　通学路での大事故が、全国で相次いだことから、国では全国一斉総点検を計画している。市として、どう取り組むのか。

教育委員長　奥州市においては、平成22年度に一斉総点検を実施している。本年度は、5月の校長会議において、児童生徒の登下校の安全確認と指導の徹底を求めている。

　今回の一連の事故を受け、学校・PTA・地域住民とも協力しながら、改めて総点検を実施する。

質問　子ども自身が安全マップを作ることで、危険に対応する力が身に付く。現状はどうか？

教育委員長　ほとんどの小学校で安全マップは作成し、保護者にも配付している。子ども自身が作成するという点は今まで弱かった。今後の改善に活かしていく。

質問　防犯灯に関し、住民からの要望は出るが、取り組みに地域差がある。電気料金の支援の他にも、設置を推進する何らかの取り組みが必要ではないか。

　また、圃場整備における水路にも対策を講じる必要があるのでは。

市長　防犯灯（街路灯）に関し、広報で取付けの事例を紹介することで、地域の取り組みを後押ししていく。

　危険な水路への対策も市が管轄するところについては検討する。

水路にも早期の安全対策を

質問　自転車の利用者が10年前と比べ、3倍に増えている。それに比例するように、自転車対歩行者の事故が3倍に増えていて、賠償問題も起きている。

　奥州市の小中学校における実態はどうか。

教育委員長　軽微なものも含め、昨年度は小学校で3件、中学校で19件の事故があった。乗り方が悪いとの指摘も受けているが、指導はまだ十分とは言えない。どのような取り組みができるか検討する。

菅原　明（すがわら あきら）
（日本共産党）

● 宅地崩落事故への支援策を早急に願う
● 接待館遺跡整備の見通しはどのように計画しているか

質問　5月の連休中に集中豪雨があり、衣川区の北股地内で、宅地のコンクリート擁壁が、杉の木と共に崩れ落ち、あわや住宅にも迫るような崩落事故が発生した。被害を受けた家は、急傾斜地に該当する危険箇所だった。被災された方への、支援策について伺う。

市長　衣川区古舘地内で発生した崩落被害の対応については、災害関連の治山事業で対応出来る見通しになった。本年度着手し、地権者の負担がない形で、実施できると考えている。

大雨による崩落事故現場

質問　接待館遺跡は、奥州市が所有者になったので、今年度遺跡の除草など、整備計画をどのように計画されているか、また、来客者が遺跡内を散策する際に、説明板と照らし合わせ、かわらけが出土した場所などが分かるような対応策も、講ずるべきであると思うが、その考えについて伺う。

教育委員長　除草については、費用を予算に盛り込んであるので、責任を持って行なう。回数については年3回程度最低でも2回と考えている。遺跡内を来客者に理解してもらうような工夫については、ボランティアガイドさんとも協議をして進めたい。さらには、地元の方との協働で取り組みたい。

整備計画が望まれる接待館遺跡